

このような時期に、地元の熊本大学が沿岸域環境科学教育研究センターを設立され、生物学ばかりでなく、化学、工学、社会学などの英知を集め、環境科学として総合的に有明海、八代海について教育、研究されることは私達水産関係者にとって頼もしい限りであるばかりでなく、海を愛する県民にとっても大いに期待されるどころです。



熊本市水産研究センター全景

水産研究センターでは、国、隣県、地元大学などの研究機関と連携して、海の異変の原因究明とその対応策について重点的に調査研究を進めています。私たちは、熊本大学沿岸域環境科学教育研究センターとより広い分野で共同して有明海、八代海の再生を目指していきたいと思っています。

(寄稿)

センターニュースに期待する

熊本県漁業協同組合連合会代表理事長
井出正徳



むつごろう通信の創刊号に当り、一言ご挨拶申し上げます。

ご承知の通り、有明海は、広大な干潟を有し、干満の差を利用した各種漁業が営まれており、八代海は、多くの半島、島嶼を始め干潟、干拓、リアス式海岸等多様な地形に恵まれた豊かな海岸資源、観光資源を持つ、いずれも「宝の海」です。

しかしながら、最近、本県の基幹産業でありますノリ養殖を中心に、特に有明海では主力となってきたアサリ、ハマグリ、タイラギ等の貝類が、八代海ではエビ類の落ちこみが大きく、減少壊滅的現象が見られております。

しかしながら、最近、本県の基幹産業でありますノリ養殖を中心に、特に有明海では主力となってきたアサリ、ハマグリ、タイラギ等の貝類が、八代海ではエビ類の落ちこみが大きく、減少壊滅的現象が見られております。

21世紀のキーワードは、「環境だ」と言われております。子々孫々に残せる自然を守るため、各海域の環境悪化を防がなければなりません。

斯様なおり、熊本大学におかれましては、沿岸域環境科学教育研究センターを立ち上げられ、産学官が一体になり、干潟域の生物や生態系の研究、資源

の保全や新苗種開発等広範囲に対策と創造に貢献頂く体制を整えられた事は、誠に時宜を得たものと心から喜びとするものであります。

どうか多くの関係者の交流が深められ、センターからの情報が有意義に活用され、地産地消を目的に、本県の水産業の発展に寄与されますよう祈念し、挨拶いたします。

“むつごろう通信”は “海の井戸端会議場”

有明・八代の海は、私たち熊本県民にとって“庭の池”のような存在で、昔から、かけがえのない恩恵を与えてくれています。ところが近年、魚介類の激減、赤潮の多発、ノリ不作等に見られるような環境悪化が進行し、一方では不知火海高潮災害のような海岸災害も発生し、環境と防災に関する深刻な問題と直面しております。この“かけがえのない海”を大切に、守り続け、そして次世代に伝えていかねばなりません。このために、県民の皆さんや、行政、大学など多くの人たちが、海について考え、語り合い、海を想う心を豊かに育てることが大事だと思います。このような思いから、有明海にしか棲んでいない“むつごろう”を合言葉にした“語らいの広場”としてのニュースを発行することにしました。“むつごろう通信”は、私たちの大切な大切な“有明・八代の海”が“いつまでも美しく健全”であるように、皆で相談し合う“井戸端会議場”としてスタートします。皆様からのたくさんのお話をお寄せください(投稿先、書式はお知らせにあります)。



干潟のムツゴロウ

新年度の総合科目 「有明海・八代海を科学する」の開講

平成14(2002)年度前期の水曜日4時限に、一年生を対象に、学内(沿岸域センターおよび理学部)と、外部(島根大学、長崎大学、鹿児島大学)の教官が分担して、講義をします。内容は、有明海・八代海に関する基礎ならびに応用科学の研究成果を基に、海苔の色落ち、赤潮の発生、干潟沿岸域の生物多様性、自然環境の形成、環境の保全・創造などです。